虫垂癌の病期分類

形態コード (組織型)

《虫垂癌》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
腺癌	Adenocarcinoma	8140/3
管状腺癌	Tubular adenoca.	8211/3
乳頭腺癌	Papillary adenoca.	8260/3
低異型度虫垂粘液性腫瘍	Low-grade appendiceal mucinous neoplasm (LAMN)	8480/2
粘液癌	Mucinous adenoca.	8480/3
印環細胞癌	Signet-ring cell ca.	8490/3
未分化癌NOS	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8020/34
粘液嚢胞腺癌NOS	Mucinous cystadenoca., NOS	8470/3
腹膜偽粘液腫	Pseudomyxoma peritonei	8480/3

形態コード(病理組織) 《虫垂》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍 過形成ポリープ	<i>Benign epithelial tumours and precursors</i>	
鋸歯状異形成、低異型度	Serrated dysplasia, low grade	8213/0
鋸歯状異形成、高異型度	Serrated dysplasia, high grade	8213/2
虫垂粘液性腫瘍、低異型度	Low-grade appendiceal mucinous neopl.	8480/0
虫垂粘液性腫瘍、高異型度	High-grade appendiceal mucinous neopl.	8480/2
虫垂粘液性腫瘍、虫垂外進展を伴う	Appendiceal mucinous neoplasm w/ extra-appendiceal spread	8211/0
悪性上皮性腫瘍	<i>Malignant epithelial tumours</i>	
腺癌、NOS	Adenoca., NOS	8140/3
粘液腺癌	Mucinous adenocarcinoma	8480/3
印環細胞癌	Signet-ring cell carcinoma	8490/3
未分化癌、NOS	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8020/3
杯細胞腺癌	Goblet cell adenocarcinoma	8243/3
神経内分泌腫瘍、NOS	Neuroendocrine tumours, NOS	8240/3
神経内分泌癌	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8246/3
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	8041/3
MINEN	Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neopl.	8154/3

低異型度虫垂粘液性腫瘍(LAMN)

- LAMN
Low-grade appendiceal mucinous neoplasm
- 漿膜下層より深部に浸潤

T分類(UICC第8版)

《虫垂》

- Tis** 上皮内癌(上皮内または粘膜固有層に浸潤) (M)
- Tis(LAMN)** 低悪性度虫垂粘液腫瘍(MPまで)
- T1** 粘膜下層に浸潤 (SM)
- T2** 固有筋層に浸潤 (MP)
- T3** 漿膜下層または虫垂間膜に浸潤 (SS)
- T4** 臓側腹膜を貫通 (SE)
(腹膜粘液腫瘍あるいは虫垂/虫垂間膜上の無細胞性ムチンを含む)
- および/または 他の臓器・組織に浸潤 (SI)
- T4a** 臓側腹膜を貫通する腫瘍
(腹膜粘液腫瘍あるいは無細胞性ムチンを含む)
- T4b** 他の臓器または組織に直接浸潤

※ LAMNについては、2018～21年
2022年～

登録対象外(転移を伴わない場合)
筋層までの浸潤はTis(LAMN)(8480/2)、
漿膜下層以上の浸潤はT3以上(8480/3)

N分類(UICC第8版)

《虫垂》

NX 領域リンパ節転移の有無が不明なもの

N0 領域リンパ節転移なし

N1 1～3個の領域リンパ節転移

N1a 1個の領域リンパ節転移

N1b 2～3個の領域リンパ節転移

N1c Tumor Deposits

N2 4個以上の領域リンパ節転移

● 領域リンパ節

回結腸リンパ節(#201, 202, 203)

M分類(UICC第8版)

《虫垂》

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

M1a 無細胞性ムチンのみを腹膜に認める

M1b 細胞成分を含む腹膜転移を認める

M1c 腹膜転移以外の遠隔転移

G分類(UICC第8版)

《虫垂》

G1 高分化 低悪性度粘液癌

G2 中分化 高悪性度粘液癌

G3 低分化 高悪性度粘液癌

G4 未分化

GX 分化度不明

● **G1**か否かが問題

腹膜偽粘液腫

● 粘液嚢胞腺腫/腺癌

虫垂や卵巣に原発することが多いが、
診断時には原発が不明のことも多い

■ 粘液を嚢胞状に貯留した腫瘤

■ 悪性化することも多い

ステージ(UICC第8版)

《虫垂》

		N0		N1		N2	
		G1	G2-G4	G1	G2-G4	G1	G2-G4
Tis		0					
Tis(LAMN)		0					
T1		I		ⅢA		ⅢC	
T2		I		ⅢA		ⅢC	
T3		ⅡA		ⅢB		ⅢC	
T4	T4a	ⅡB		ⅢB		ⅢC	
	T4b	ⅡC		ⅢB		ⅢC	
M1	M1a	ⅣA		ⅣA		ⅣA	
	M1b	ⅣA	ⅣB	ⅣA	ⅣB	ⅣA	ⅣB
	M1c	ⅣC		ⅣC		ⅣC	

進展度(UICC第8版)

《虫垂》

		N0	N1	N2
Tis		上皮内		
Tis(LAMN)		上皮内		
T1		限 局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		限 局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		限 局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T4	T4a	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	T4b	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
M1	M1a	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移
	M1b	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移
	M1c	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

大腸癌取扱い規約での虫垂癌

- 虫垂に発生した癌腫は、
UICC TNM分類 第8版に準じて分類。

肛門管がんの病期分類

局在コード

《肛門管》

	ICD-O 局在	取扱い規約 (第9版)	診療情報所見	備考
腫瘍占拠部位	C21.1	P	肛門管	
	C44.5	E	肛門周囲皮膚	肛門縁から5cm以内の皮膚を指す

形態コード（組織型）

《肛門管》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
高異型度上皮内腫瘍	High-grade intraepithelial neopl.	8077/2
Bowen病	Bowen's disease	8081/2
腺癌	Adenoca.	8140/3
直腸型	Rectal type	8140/3
管外型(痔瘻癌、肛門腺癌)	Extramucosal (perianal) adenoca.	8215/3
扁平上皮癌	Squamous cell ca. (scc)	8070/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	8560/3
神経内分泌腫瘍	Neuroendocrine tumor(NET)	
NET G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/31
NET G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/32
神経内分泌癌	Neuroendocrine carcinoma (NEC)	
大細胞神経内分泌癌	Large cell NEC	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell NEC	8041/3
乳房外Paget病	Extramammary Paget disease	8542/3
悪性黒色腫 など		

日本の肛門管癌の80%は腺癌(欧米では、大部分が扁平上皮癌)

形態コード(病理組織) 《肛門管》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
良性上皮性腫瘍、前癌状態	<i>Benign epithelial tumours and precursors</i>	
扁平上皮内腫瘍、低異型度	Squamous intraepithelial neopl., low grade	8077/0
扁平上皮内腫瘍、高異型度	Squamous intraepithelial neopl., high grade	8077/2
悪性上皮性腫瘍	<i>Malignant epithelial tumours</i>	
扁平上皮癌、NOS	Squamous cell carcinoma, NOS	8070/3
疣状扁平上皮癌	Verrucous squamous cell ca.	8051/3
腺癌、NOS	Adenoca., NOS	8140/3
神経内分泌腫瘍、NOS	Neuroendocrine tumours, NOS	8240/3
NET G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/31
NET G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/32
NET G3	Neuroendocrine tumour, grade 3	8249/33
神経内分泌癌	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8246/3
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	8041/3
MINEN	Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neopl.	8154/3

T分類(UICC第8版)

《肛門管》

TX 原発腫瘍の評価が不可能

T0 原発腫瘍が認められない

Tis 上皮内癌、Bowen病、高度扁平上皮内病変(HSIL)、
肛門上皮内新生物Ⅱ-Ⅲ(AIN2-3)

T1 最大径が、2cm以下の腫瘍

T2 最大径が、2cmを越えるが、5cm以下の腫瘍

T3 最大径が、5cmを越える腫瘍

T4 大きさに関係なく、隣接臓器に直接浸潤する腫瘍

※ 直腸壁、肛門周囲皮膚、皮下組織、または括約筋のみへの浸潤は
T4に分類しない

N分類(UICC第8版) 《肛門管》

NX 領域リンパ節転移の評価が不可能

N0 領域リンパ節転移なし

N1 領域リンパ節転移あり

N1a 鼠径リンパ節、直腸間膜リンパ節、
および/または 内腸骨リンパ節転移

N1b 外腸骨リンパ節への転移

N1c 外腸骨リンパ節への転移に加えて、
鼠径リンパ節、直腸間膜リンパ節、
および/または 内腸骨リンパ節転移を伴うもの

領域リンパ節

直腸周囲、内腸骨、外腸骨、鼠径リンパ節

※ 直腸間膜リンパ節 = 傍直腸リンパ節(直腸周囲リンパ節)と考えて良い

M分類(UICC第8版)

《肛門管》

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

ステージ (UICC第8版)

《肛門管》

	N0	N1		
		N1a	N1b	N1c
Tis	0			
T1	I	ⅢA	ⅢA	ⅢA
T2	ⅡA	ⅢA	ⅢA	ⅢA
T3	ⅡB	ⅢC	ⅢC	ⅢC
T4	ⅢB	ⅢC	ⅢC	ⅢC
M1	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

進展度(UICC第8版)

《肛門管》

	N0	N1		
		N1a	N1b	N1c
Tis	上皮内			
T1	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T4	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

大腸癌取扱い規約での肛門管癌

- 扁平上皮癌、肛門腺癌、痔瘻癌については、**UICC TNM分類 第8版**に準じて分類。
- 直腸型腺癌については、規約独自の病期分類を行う。

壁深達度（大腸癌取扱い規約第9版）《直腸型腺癌》

- TX** 壁深達度の評価ができない
- T0** 癌を認めない
- Tis** 癌が粘膜内にとどまる
- T1** 癌が粘膜下層までにとどまり、内括約筋に及んでいない
 - T1a** 癌が粘膜下層までにとどまり、浸潤距離が1000 μ m未満
 - T1b** 癌が粘膜下層までにとどまり、浸潤距離が1000 μ m以上
- T2** 癌が内括約筋に及ぶが、連合縦走筋までにとどまる
- T3** 癌が連合縦走筋を越えて浸潤する
- T4** 癌が肛門挙筋 または 隣接臓器に浸潤している

領域リンパ節転移(大腸癌取扱い規約第9版)《直腸型腺癌》

- 腫瘍占拠部位と血管の関係により、
腸管傍リンパ節、中間リンパ節、主リンパ節、側方リンパ節に区分
- N0** リンパ節転移なし
- N1** 腸管傍と中間リンパ節の転移総数が**3**個以下
 - N1a** 転移個数が**1**個
 - N1b** 転移個数が**2-3**個
- N2** 腸管傍と中間リンパ節の転移総数が**4**個以上
 - N2a** 転移個数が**4-6**個
 - N2b** 転移個数が**7**個以上
- N3** 主リンパ節 あるいは 側方リンパ節に転移

遠隔転移(大腸癌取扱い規約第9版)《直腸型腺癌》

M0 遠隔転移を認めない。

M1 遠隔転移を認める。

M1a 1臓器に遠隔転移を認める。

M1b 2臓器以上に遠隔転移を認める。

M1c 腹膜転移を認める

M1c1 腹膜転移のみ

M1c2 腹膜転移と他臓器転移

※ 肝転移、肺転移、腹膜転移の場合は、それぞれの転移程度を付記する。

その他（大腸癌取扱い規約第9版） 《直腸型腺癌》

●肝転移

H0 肝転移を認めない

H1 肝転移4個以下かつ最大径が5cm以下

H2 H1、H3以外

H3 肝転移巣5個以上かつ最大径が5cmを超える

●腹膜転移

P0 腹膜転移を認めない

P1 近接腹膜にのみ播種性転移を認める

P2 遠隔腹膜に少数の播種性転移を認める

P3 遠隔腹膜に多数の播種性転移を認める

その他（大腸癌取扱い規約第9版）《直腸型腺癌》

● 肺転移

PUL0 肺転移を認めない

PUL1 肺転移が**2**個以下、または片側に**3**個以上

PUL2 肺転移が両側に**3**個以上、
または癌性リンパ管炎、癌性胸膜炎、肺門部、
縦隔リンパ節転移を認める。

※肝転移、腹膜転移、肺転移いずれかが「転移あり」の場合は、
「**M1**」としてStageを決定する

ステージ (大腸癌取扱い規約第9版) 《直腸型腺癌》

		N0	N1		N2		N3
			N1a	N1b	N2a	N2b	
Tis		0					
T1	T1a	I	Ⅲa		Ⅲa	Ⅲb	Ⅲb
	T1b						
T2			Ⅲa		Ⅲb	Ⅲb	Ⅲb
T3		Ⅱa	Ⅲb		Ⅲb	Ⅲc	Ⅲc
T4	T4a	Ⅱb	Ⅲb		Ⅲc	Ⅲc	Ⅲc
	T4b	Ⅱc	Ⅲc				
M1	M1a	Ⅳa	Ⅳa		Ⅳa		Ⅳa
	M1b	Ⅳb	Ⅳb		Ⅳb		Ⅳb
	M1c	Ⅳc	Ⅳc		Ⅳc		Ⅳc